

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.214

2011年3月

名古屋銀行と産学連携に関する協定を締結



나와 대학의 대학 생활은 매일 꿈만 같습니다. ^^
와야 대학의 학생들을 보여 저 또한 열심히 해야겠다는
대담을 하곤 합니다.

名古屋大学での生活は、毎日夢みたいです。
名大生を見て、私も頑張らなきゃ!と思います。

ကျွန်ုပ်တို့၏အချိန်အကုန်လုံးကိုအသုံးပြုရန်အတွက်
ကျွန်ုပ်တို့၏အချိန်အကုန်လုံးကိုအသုံးပြုရန်အတွက်
ကျွန်ုပ်တို့၏အချိန်အကုန်လုံးကိုအသုံးပြုရန်အတွက်

名古屋大学で過ごす時間は、研究のためだけでなく、日本文化を知り、
世界中から集まったたくさんの人たちと交流するためでもあります。
これらは、名古屋大学での私の目標です。



目次

●ニュース

名古屋銀行と産学連携に関する協定を締結	3
平成23年度名古屋大学入学試験を実施	4
第66、67回防災アカデミーを開催	4
大学院文学研究科及び理学研究科の学生2名が 日本学術振興会育志賞を受賞	5
伊山多元数理科学研究科教授と大井工学研究科教授が 日本学術振興会賞を受賞	5
第31回経営協議会を開催	5
リサーチアドミニストレーター講演会を開催	6

●知の未来へ

神経変性疾患に対する治療法の開発 勝野 雅央（高等研究院特任講師）	7
--------------------------------------	---

●知の先端

1つで収量を増やし、倒れにくくするイネの遺伝子を発見 松岡 信（生物機能開発利用研究センター教授）	8
--	---

●部局ニュース

国際シンポジウム「グローバル化と市場経済移行のもとでの 行政法の変化」を開催	10
「名古屋大学でオリオン星雲をみる会」を開催	10
ICCAE 第4回オープンセミナーを開催	11
「電子顕微鏡で見る野鳥のミクロ世界」を開催	11
第37回博物館コンサートを開催	11
ポタニカルアート作品展を開催	12

●名大基金にご寄附いただいた方々

●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成23年1月16日～2月15日	13
---------------------------------	----

●イベントカレンダー

●名大トピックスの表紙で綴るキャンパス風景	20
-----------------------	----

●ちょっと名大史

映像資料にみる1960年代の名大① — 第1回名大祭 —	23
------------------------------	----

名古屋銀行と産学連携に関する協定を締結



協定書を取り交わす（左から）宮田理事と築瀬取締役頭取

株式会社名古屋銀行との産学連携に関する協定締結式が、1月21日（金）、本部1号館第2会議室において、挙行されました。

本学から宮田理事、武田産学官連携推進本部連携推進部長、渡邊同起業推進部長、(株)名古屋銀行から築瀬悠紀夫取締役頭取、山本恭久同常務取締役及び小坂井千春同執行役員営業統括部長の列席のもとに行われた締結式では、宮田理事、築瀬取締役頭取がそれぞれの立場からあいさつを行い、連携への期待を確認しあった後、協定書を取り

交わしました。

同行とは以前から、本学と商談会や人材育成に関する取り組みを実施してきており、今回あらためて産学連携協定を結ぶことにより、今後一層お互いの関係が深まることが期待されます。

また同行は、国立大学と協定を締結するのは今回が初めてであり、「経済情勢が依然として厳しい状況にある中、地域を代表する総合大学との産学連携を大変期待しているところ」と築瀬取締役頭取からあいさつがありました。

本学としても、特に次世代自動車、環境、農業などの新産業分野に対する産学官連携を推進しているところであり、地元中堅・中小企業との関係が多い有力地銀との協定締結は、大学側が目指す中部地域の産学官連携プロジェクト実現の意向とも合致し、新たな産学官連携の枠組みや技術支援を通じた地域貢献はもちろん、今後の研究費や寄附金の獲得にも可能性が広がるものとなります。



協定書にサインする（左から）宮田理事と築瀬取締役頭取

平成23年度名古屋大学入学試験を実施

平成23年度名古屋大学入学試験（前期日程）が、2月25日（金）、26日（土）の2日間、東山地区及び大幸地区の2地区の試験場で行われ、合計1,708名の募集人員に対し、5,360名の出願がありました。

試験当日は、あいにくの雨模様でしたが、朝早くから豊田講堂前庭や附属図書館前のグリーンベルト周辺に受験者



試験会場の様子

が集まり、引率教師からの試験前の注意事項に耳を傾け本番に備えていました。

また、受験票を手に緊張した面持ちで試験会場を確認している受験者に対し、試験会場を案内する職員や学生の姿があちらこちらで見られました。

1日目は、午前10時から外国語の試験が全学部において一斉に始まり、5,090名の受験者が試験問題に取り組みました。午後には理科、地理歴史、小論文の試験が行われ、濱口総長、高橋事務局長が各試験場を訪れ、試験場主任や試験場本部の教職員を激励しました。

2日目には午前10時から数学の試験が、午後には国語の試験が行われ、午後3時55分にすべての試験が終了し、試験を終えた受験者はお互いに試験問題について話し合うなどして、家路につきました。

なお、同試験の合格発表が、3月9日（水）午前11時から豊田講堂において行われました。

また、後期日程試験は、3月12日（土）に医学部鶴舞キャンパスにおいて実施され、合格発表は23日（水）午前10時に、同じく鶴舞キャンパスにおいて行われます。

第66、67回防災アカデミーを開催

第66、67回防災アカデミーが、1月19日（水）、2月10日（木）、環境総合館レクチャーホールにおいて開催されました。

第66回では、桜井誠一神戸市役所代表監査委員が「私の体験的危機管理～阪神・淡路大震災と新型インフルエンザ広報体験から～」と題した講演を行いました。桜井代表監査委員は、阪神・淡路大震災や2009年の新型インフルエン



第66回防災アカデミーの様子

ザ流行など、危機的な状況下で陣頭指揮を執ってきた体験をもとに、行政の立場からマスコミや市民への対応の鉄則や、あるべき対応の姿について説明しました。

第67回では、船木伸江神戸学院大学講師が「阪神・淡路大震災を語り継ぐ 震災の直接経験を持たない学生達のチャレンジ」と題した講演を行いました。船木講師は、自身が所属する防災・社会貢献ユニットで学部学生の震災プロジェクトへの取り組みをコーディネートし、震災経験を持たない学生達の防災活動を紹介しました。今回は、実際に活動を続けている同大学の学部学生である稲田靖子さん、大橋一徳さんが、学生の視点を持った柔軟な防災教育を通して、実施者側としての「学び」だけでなく、受け手側から得られる「学び」について紹介しました。

船木講師は「震災の直接体験を持たない子ども達が大人になり、大学生として当時を学ぶことで伝承の担い手になれる」ことを強調しました。

第66回は97名、第67回は88名の参加がありました。それぞれ身近な防災の課題として多くの関心を集め、熱心な質疑応答が行われました。

大学院文学研究科及び理学研究科の学生2名が 日本学術振興会育志賞を受賞

大学院文学研究科博士課程後期課程1年の市川 彰さんと大学院理学研究科博士課程後期課程3年の柳澤周一さんが、第1回（平成22年度）日本学術振興会育志賞を受賞しました。

この賞は、日本学術振興会が天皇陛下から御下賜金を賜り、陛下のお気持ちを受けて、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程後期課程の学生を顕彰することで、勉学及び研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的に創設されたもので、第1回の今回は、17名が受賞しました。

今回の受賞対象となった研究テーマは、市川さんが「メソアメリカ古典期社会の形成過程に関する考古学的研究」、

柳澤さんが「炭素－水素結合の直接変換に基づく芳香環連結反応の開拓」です。

なお、授賞式は、2月1日(火)に、東京都の日本学士院において、天皇皇后両陛下のご臨席のもと行われました。

伊山多元数理科学研究科教授と大井工学研究科教授が 日本学術振興会賞を受賞

伊山 修多元数理科学研究科教授と大井貴史工学研究科教授が、第7回（平成22年度）日本学術振興会賞を受賞しました。

この賞は、将来の学術研究のリーダーとして、後のノーベル賞候補者となるようなフレッシュな研究者をいち早く顕彰することにより、今後の研究にチャンスを与え、ブレークスルーを促そうとするもので、今回は241名の被推薦者の内、25名が受賞しました。

今回の受賞対象となった研究テーマは、伊山教授が「整環の表現論」、大井教授が「キラランアンモニウム塩やキラルトetraアミノホスホニウム塩を用いた不斉合成反応の開発」です。

なお、授賞式は、3月3日(木)、東京都の日本学士院において行われました。

第31回経営協議会を開催



会議の様子

第31回経営協議会が、1月30日(日)、鶴舞地区にある鶴友会館において開催されました。

会議では、濱口総長からあいさつの後、平成23年度予算、資産の有効活用について各担当理事からそれぞれ説明が行われ、審議の結果、了承されました。

次いで、地域の医師確保等の観点からの平成23年度医学部入学定員の増加、中期目標・中期計画の変更、平成21年度会計検査院決算検査報告、人事院勧告への対応、パートタイム勤務職員等の雇用期限、平成22年度就職内定状況、グリーンモビリティ連携研究センターの設置、細胞・構造生理学連携研究センターの設置について報告が行われました。その他、大学の国際化や基金の取り組み状況について報告が行われました。

外部委員の方々からは、大学財政等に関して貴重な意見が寄せられました。

リサーチアドミニストレーター講演会を開催



会場の様子

リサーチアドミニストレーター（RA）講演会が、1月18日（火）、シンポジオンホールにおいて開催されました。

まず、渡辺副総長からあいさつがあった後、長野 勇金沢大学理事から「金沢大学における戦略的 RA の配置」と題して、大型外部資金の獲得支援を目的として RA を配置した経緯やその効果等について講演がありました。

続いて、鳥谷真佐子金沢大学フロンティアサイエンス機構博士研究員から「RA 導入の現状と課題」と題して、金沢大学における RA の活動状況や導入・定着に向けて検討すべき課題について講演がありました。

参加者は約80名あり、先進的な取り組みについての説明を、メモするなどして熱心に聞き入っていました。

質疑応答では、少ない人数で全学の研究を支援するための運営方策について質問が出るなど、有意義な講演会となりました。

神経変性疾患に対する治療法の開発

高等研究院特任講師
勝野 雅史

神経変性疾患は、特定の神経細胞が死滅することにより運動や認知などの脳神経の機能が徐々に失われる病気で、代表的なものにはアルツハイマー病・パーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症などがありますが、いずれの病気についても神経細胞が死滅する根本のメカニズムは不明で、神経の変性を抑える治療法もありません。しかし、近年の研究の進歩により、ほとんどの神経変性疾患において脳内に異常な蛋白質の蓄積がみられることが判明し、こうした蓄積を抑えることで神経変性の死滅を防ごうとする試みが進められています。

我々は神経変性疾患のひとつである球脊髄性筋萎縮症 (SBMA) に対する治療法の開発を進めています。SBMA は名古屋大学の前身である愛知医科大学の川原汎が1897年に世界で初めて報告した病気であり、運動ニューロンの変性 (図1) により手足やのどの麻痺が成人期以降に徐々に進行し

ます。SBMA は男性のみにおこる病気で、その原因はアンドロゲン受容体 (AR) 遺伝子の変異であり、変異 AR 蛋白質が運動ニューロンの中に蓄積することが病気のメカニズムと考えられていますが、治療法はありません。我々は SBMA のモデルマウスを作成し、変異 AR 蛋白質の蓄積には男性ホルモン (テストステロン) が必要であることを見出しました。このモデルマウスに、テストステロンの分泌を抑える薬 (LHRH アナログ) を投与すると変異 AR 蛋白質の蓄積が抑えられるとともに、筋萎縮や運動機能が改善しました (図2)。さらに、SBMA の患者さんを対象とした LHRH アナログの臨床試験 (治験) を行ったところ、これまでに得られた解析結果では残念ながらモデルマウスで見られたほどの強力な治療効果は見出されていませんが、病気が発症してから間もない患者さんではのどの麻痺が抑えられる可能性が示されつつあります。

分子生物学的研究の進展とともに、神経変性疾患は「治らない病気」から「治療可能になりつつありますが、動いた研究成果がそのまま患者さんに直結するとは限らな次第に分かってきました。これまでの研究成果を基に食い止める治療法を開発す・臨床医学の両面から研究を進めています。

リサーチアド
 ミニストレー
 ター講演会を
 開催

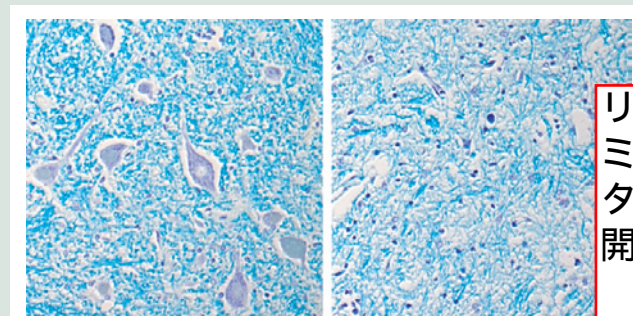


図1 健常者 (左) および SBMA 患者 (右) の脊髄
 球脊髄性筋萎縮症では運動ニューロンが死滅している。

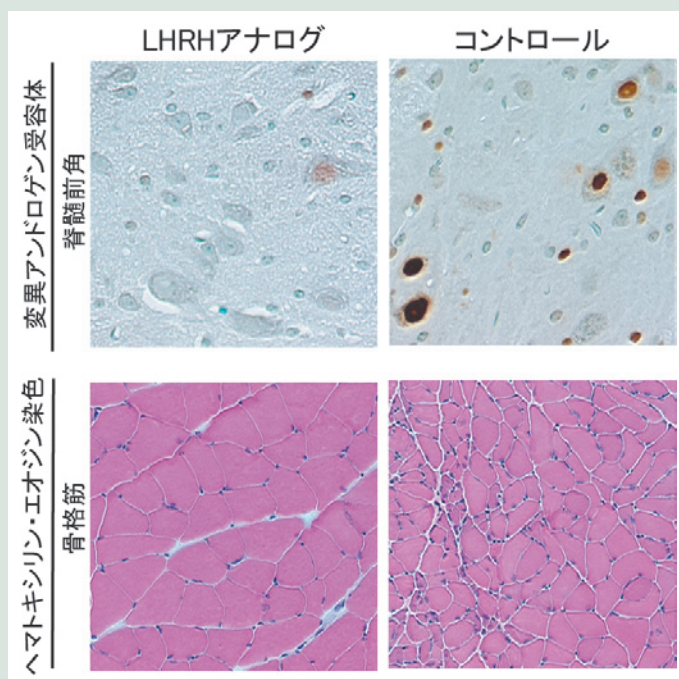


図2 SBMA モデルマウスに対する LHRH アナログの効果
 LHRH アナログにより変異アンドロゲン受容体蛋白質の蓄積が抑えられ、筋肉の萎縮が改善した。

1つで収量を増やし、倒れにくくするイネの遺伝子を発見 —21世紀の食料増産のための新しいイネ品種改良に道—

松岡 信 生物機能開発利用研究センター教授

20世紀後半、穀物生産量の飛躍的な増加が成し遂げられました。いわゆる「緑の革命」です。「緑の革命」の成功の鍵は化学肥料の大量使用でした。一方、肥料の使用は作物の茎を伸ばし倒しやすくします。そこで、イネやコムギの育種家は、茎を短くする突然変異を利用して、新しい品種を開発しました。このため、「緑の革命」の成功は、背を低くした新しい品種開発も「成功の鍵」でした。

現在、再び食料不足が懸念されています。この打開には、以前成功した背を低くする遺伝子はもう利用できません。なぜなら、これ以上背を低くすると穂も小さくなって収量が減ってしまうからです。そこで、私たちは、背を低くするのではなく、茎を強くする遺伝子を見つけ、倒れにくくする戦略を採用することにしました。その結果、超多収インド稲品種のハバタキから茎を太くする遺伝子、SCM2、を見つけることに成功しました。この遺伝子は都合の良いことに茎を太くするだけでなく、収量（タネの数）も増加させる効果を持つことが分かりました。またこの遺伝子を使って、収量が増加して倒れにくくなったコシヒカリを作ることも成功しました。この遺伝子は、イネだけではなく、コムギなど他のイネ科の主要作物に存在しこれらの作物にも応用が可能と考えられ、他の作物への展開も可能です。このように本研究成果は、倒れにくい多収品種の開発を通じて、世界の食料増産、食料問題の解決に貢献することが期待されます。

現在、全世界で10億人以上が栄養不足の状態にあり、さらに世界人口は2050年には90億人を超えると予測されています。その一方、世界のイネ、コムギなどの主要な穀物生産量の増加は21世紀に入り鈍化しており、人口増加の速度を下回る状況となっています。また、我が国は食料自給率が40%と低く、大量の食料を海外から輸入していますが、上のような世界状況を考えると、将来にわたり安定して海外から食料を輸入することは困難となる可能性が予想されます。

20世紀半ばにも、食料危機が懸念されましたが、人類は農業技術の発展により食料生産量を飛躍的に増加させそれを回避しました。いわゆる「緑の革命」です。「緑の革命」の成功の鍵は、化学肥料を多く与えても茎が伸びず、倒伏（作物が

倒れること）しにくいイネやコムギの品種を開発したことにありました。イネでは *semi-dwarf 1 (sd1)*、コムギでは *Rht1*、*Rht2* と呼ばれる半矮性遺伝子（茎のみ短くし、穂は小さくならない）を利用し、茎が短く倒れにくい品種を開発しました。しかし、21世紀に入りイネ、コムギの収量の増加は頭打ちの状況にあります。「緑の革命」に使った半矮性遺伝子は成長を抑制するため、バイオマス生産能力は小さくなり、これ以上の多収にはつながらないと考えられています。従ってこれからは、別の方法で作物を倒れにくくし収量を増加させる必要があります。作物を倒れにくくさせるには、作物の茎を強くさせれば良いのですが、イネを始めとしてほとんどの作物から茎の強さに関わる遺伝子は単離されていませんでした。その理由は、茎の強さは複数の遺伝子が関係する複雑な形質（量的形質）だからです。我々は、日本が中心となって解読したイネゲノム情報を活用し、インド稲が持つ茎を太くする遺伝子を見つけて、それを茎が細い日本の稲に導入することで、収量を増やしても倒れにくい稲の開発を行っています。

日本の代表的な品種「コシヒカリ」は茎が細いため、茎が曲がったり基部で折れることにより、タネが実る時期に風雨などによりすぐに倒れて収量低下や品質低下をもたらします。一方、インド型品種「ハバタキ」は茎が太く強い茎をもっています（図1）。そこで、ハバタキのもつ茎の太さや厚さなどに関わる遺伝子を調べて見ました。イ

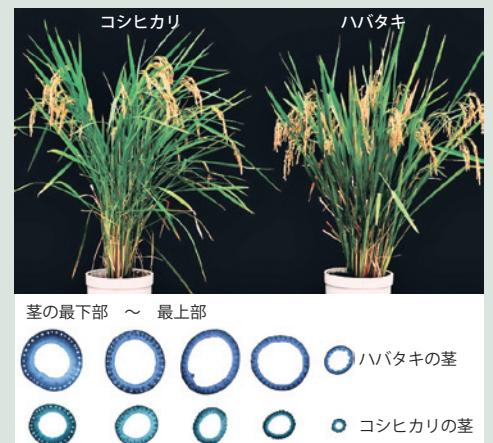


図1 コシヒカリとハバタキの比較：ハバタキはコシヒカリよりも背が低く太い茎を持っているために、穂に2倍近いタネを付けても倒れない。

ネのゲノムは既に全部解読されているので、コシヒカリとハバタキのゲノムを細かく比較することが可能です。その結果、ハバタキの茎を太くする遺伝子は、少なくとも第1染色体と第6染色体の2か所にあることがわかりました。また、第1染色体の遺伝子は茎の内壁を厚くし、第6染色体は茎の太さを太くすることがわかりました。私たちはこの2つの遺伝子のうち茎の太さを太くする遺伝子(*STRONG CULM 2(SCM2)*と名付けました)にターゲットを絞り研究を進めました。というのは、茎の強度を強くさせるには、茎を厚くするより、茎を太くするほうが効果が大きいからです。そこで、*SCM2*遺伝子が存在するゲノム領域を詳しく調べた結果、*SCM2*は茎の成長点(葉や花を作る場所)で働き穂の形成にも関わる*APO1*という遺伝子であることを見つけました。この遺伝子は茎の成長点を大きくし、穂や茎の細胞分裂を活性化する働きを持ちます。ハバタキはこの遺伝子の働きがコシヒカリよりも強いために、茎が太くてタネの数が多くなることがわかりました。

そこで、茎が弱く倒れやすいコシヒカリに、ハバタキの*SCM2*を含むゲノム部分を昔ながらの交配により導入した系統(99.9%程度コシヒカリで*SCM2*付近0.1%だけをハバタキにした系統)を作り、茎の太さとタネの数についてコシヒカリと比較しました(図2)。その結果、新しく作った品種はコシヒカリに比べて茎の太さは大きく(外径で16%、断面積で35%増加)、タネの数(20%増加)

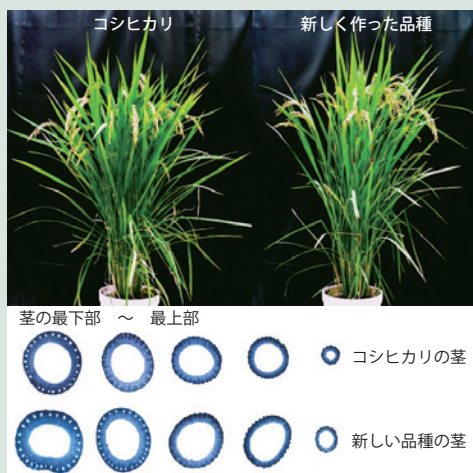


図2 コシヒカリと新しく作った品種の比較:新しく作った品種はコシヒカリよりも太い茎を持っているため倒れにくい。

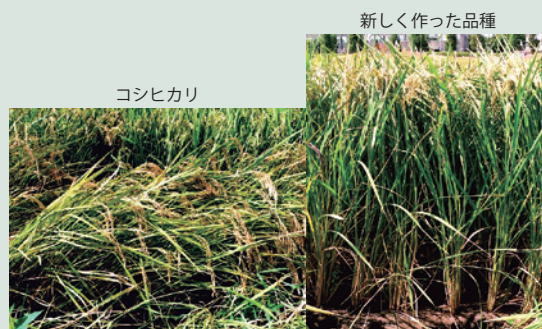


図3 台風によりコシヒカリは倒れたが新しく作った品種倒れなかった。

が増加することが確認されました。実際2009年の登熟期(タネが実る時期)に台風が来て、コシヒカリはほとんど倒れたのに対して、新しい品種は全く倒伏は見られませんでした(図3)。またタネ数が増加したことにより、収量はコシヒカリに比べて10%高くなり、倒れにくく収量の多い品種の改良に重要な遺伝子であることが明らかになりました。

現在日本で使われているほとんどのイネ品種は、茎が細く倒れやすい性質を持っています。従って、今回取られたハバタキの茎を太くする遺伝子*SCM2*を日本の品種に交配によって導入すれば、茎を強くし倒れにくくすることが可能となります。また、同時に収量も10%程度増加させることも可能です。今回は*SCM2*を使いましたが、これ以外にも茎を強くする遺伝子が見つかったので、それらの茎を強くする遺伝子をさらに付け足すことにより、コシヒカリを遙かに超える茎の強い品種を効率的に育成する道が開けました。将来はこのような茎を強化した品種に、タネをたくさん付ける遺伝子を導入することにより、超多収のイネの開発が可能です。

略歴: 1978年 名古屋大学・農学部・食品工業化学科卒業
 1980年 名古屋大学・農学研究科・修士課程修了
 1983年 名古屋大学・農学研究科・博士課程修了
 1983年 農林水産省、植物ウイルス研究所研究員
 1983年 同研究所改組により農業生物資源研究所に異動
 1989年 農業生物資源研究所主任研究員
 1991年 客員研究員(オーストラリア CSIRO)
 1993年 筑波大学生物科学研究科助教授(併任)
 1994年 名古屋大学生物分子応答センター教授
 2004年 名古屋大学生物機能開発利用研究センター教授(センター名変更)

まつおか まこと



モットー: 学而不思則罔、思而不学則殆

国際シンポジウム「グローバル化と市場経済移行のもとでの行政法の変化」を開催

●大学院法学研究科、法政国際教育協力研究センター

大学院法学研究科、法政国際教育協力研究センター(CALE)は、1月30日(日)、31日(月)の両日、三重大学メディアホールにおいて、三重大学人文学部との共催で、国際シンポジウム「グローバル化と市場経済移行のもとでの行政法の変化～行政法モデルと比較行政法の理論を求めて～」を開催しました。



集合写真

第1部では、中国、ベトナム、カンボジア、インドネシアの法律実務家・法学者が、市場経済移行過程にある各国の行政法の変化をどのように捉えるかについて報告し、第2部では、アメリカ、ドイツ、欧州評議会の法律実務家・法学者が、行政法整備支援の実施国である欧米における行政法の変化について報告するとともに、比較行政法の必要性と可能性について検討しました。

現在の市場経済移行諸国の行政法の変化は、市場経済移行とグローバル化が重なり合う状況で進行しており、行政法整備支援を実施する日本や欧米諸国の行政法も同じくグローバル化の影響を受けています。したがって、グローバル化がもたらす法変動と法空間が、アジア、日本、そして欧米の行政法にどのような影響をもたらしているか、複眼的な比較を行い、それを踏まえて行政法の変化と進化を説明する社会理論と行政法モデルを考察する「比較行政法の理論」の発展が必要とされています。

同シンポジウムでは、この比較行政法の理論をめぐって活発な議論が展開され、今後も比較行政法の理論研究のための国際的ネットワークを発展させていくことが合意されました。

「名古屋大学でオリオン星雲をみる会」を開催

●博物館

博物館は、1月22日(土)、「名古屋大学でオリオン星雲をみる会」を開催しました。

同会は、博物館の地域連携事業の一環として、名古屋市科学館の協力のもとに行われたもので、抽選で選ばれた10組37名の親子が参加しました。

当日は、まず、足立 守博物館特任教授から同会の趣旨

説明、次に、毛利勝廣名古屋市科学館天文学芸員から小型天体望遠鏡の基本操作の説明があり、その後、博物館の屋上で、親子1組に1台用意された天体望遠鏡を使って、オリオン座のベテルギウスとリゲルを観察しました。オリオン座の隣には、明るいシリウスとプロキオンも見えたので、オリオン座のベテルギウス、こいぬ座のプロキオン、おおいぬ座のシリウスがつくる「冬の大三角」について、星空の図と見比べて確認しました。

その後、講義室において、毛利天文学芸員から、当日の午後に種子島から打ち上げられた国際宇宙ステーション補給機「こうのとりの説明があり、さらに、大学院理学研究科の大学院生から、オリオン星雲の誕生や南米チリに設置されている「なんてん」電波望遠鏡の話がありました。

最後に、3月19日(土)に、リニューアルオープンする名古屋市科学館の新型プラネタリウムについての詳しい解説がありました。

参加者からは「寒かったけど面白かった」、「今日のような会があれば、ぜひまた参加したい」、「家にも小型天体望遠鏡がほしい」などの感想が聞かれました。



オリオン座を観察する参加者

ICCAE 第4回オープンセミナーを開催

●農学国際教育協力研究センター



講演するアヌチャイ客員教授

農学国際教育協力研究センター（ICCAE）は、1月28日（金）、2010年度第4回オープンセミナーを開催しました。

今回は、タイのカセサート大学獣医学部准教授であるアヌチャイ・ピニョプミン同センター客員教授が、「タイにおける野生動物保護のための人工生殖技術」と題して講演しました。

アヌチャイ客員教授は、タイでも熱帯雨林の減少は、ゾウをはじめ野生動物の多くを絶滅の危機にさらしており、人工繁殖技術の開発が絶滅を防ぐ有効な手段であることは間違いがないと話しました。人工繁殖技術開発の話では、専門外の人々には驚く映像や、また普段は見られない野生動物についての話も紹介され、興味深いセミナーとなり、22名の参加者は熱心に耳を傾けていました。

「電子顕微鏡で見る野鳥のマイクロ世界」を開催

●博物館



電子顕微鏡画像の様子を見る参加者

博物館は、2月11日（金）、同館実験室及び展示室において、「電子顕微鏡で見る野鳥のマイクロ世界」を開催しました。

小・中学生9名を含む16名の参加者は、まず、電子顕微鏡のフィラメントやポールピースを見ながら電子顕微鏡の仕組み及び野鳥の羽の構造について説明を聞きました。続いて、実際の羽を肉眼で観察した後、用意した実体顕微鏡で各自が倍率を上げて観察しました。さらに観察倍率を上げるため、博物館所有の2台の卓上走査型電子顕微鏡を使い、カラスの正羽のフック、綿羽、マガモの翼鏡などの構造を観察しました。

参加者は、肉眼から電子顕微鏡レベルまで倍率を上げて連続的に観察する面白さを体験し、野鳥の羽の微細構造に驚嘆していました。終了後のアンケートでは、「楽しかった、また参加したい」との感想が多く、次回観察への期待が寄せられました。

第37回博物館コンサートを開催

●博物館



コンサートの様子

博物館は、1月29日（土）、同館展示室において、第37回博物館コンサート（NUMCo）を開催しました。

今回は「アイルランド音楽紀行」と題し、小松 大さん、服部紀子さん、山本晴美さん、山本 篤さんが、バグパイプに似たイリアン・パイプスやスプーンを打ち合わせる楽器などにより、アイルランド音楽の演奏を行いました。

教科書や絵本のイラストレーターでもある山本 篤さんが描いたアイルランドの風景のイラストが舞台の背景に飾られ、アイルランドのダンス音楽を中心に、なじみ深いアイルランド民謡「庭の千草」など全19曲が、約1時間にわたり演奏されました。

楽器の歴史や構造、演奏方法などの解説もあり、参加者はとても興味深く聞きっていました。

ボタニカルアート作品展を開催

●博物館

博物館は、2月7日(月)から3月4日(金)の間、医学部附属病院中央診療棟2階リハビリ広場において、ボタニカルアート作品展を開催しました。ボタニカルアートとは、花びらやガクの数はもちろんのこと、虫食いの痕まで忠実に描く植物細密画で、美術品としてだけでなく、写真の発達した現在でも図鑑などにも用いられる博物画の一つです。



鑑賞する来場者

これは、1月11日(火)から2月5日(土)まで博物館で展示されていた博物館友の会ボタニカルアートサークルのメンバーの作品の一部、26点を展示したもので、会場には細密に描かれた花や実を付けた植物の絵が飾られました。

博物館では、東海林富子講師の作品をもっと見たいという声に応え、3月8日(月)より4月9日(土)まで、東海林講師の作品、約60点を一堂に集めて展示します。

さらに、「講師の絵をそばに置きたい、お手本にしたい」といった要望が多く聞かれることから、展示図録の有償配布を行います。

博物館では、今後もボタニカルアートのような博物学を通しての生涯学習や地域貢献を進めていきます。

名古屋大学基金の状況報告

「名古屋大学基金」は、平成18年3月に本学の良き伝統を守りつつ、さらに活性化させ、生き生きとした教育・研究環境を作り、21世紀の社会を支える「勇気ある知識人」を輩出するための基盤整備として設立しました。

この基金の運用益で、下記の事業を行うことになっております。

- 国際交流事業
- 教育・研究環境整備事業
- 学生育英事業
- その他事業（産学連携、社会貢献活動の支援）

寄附者芳名録

名古屋大学OB、企業、一般の方々等から名古屋大学基金へご協力をいただき感謝申し上げます。

今後ともより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ここに感謝の意を込めてご芳名を五十音順に掲載させていただきます。

なお、ここに掲載させていただきます個人のご芳名は、前回以降（さ行）となっておりますことを申し添えます。

法人（第1期 平成18年3月～平成21年12月末）

アイシン精機株式会社	様	名古屋大学全学同窓会関東支部	様
愛知製鋼株式会社	様	名古屋大学全学同窓会関西支部	様
株式会社ジェイテクト	様	名古屋大学全学同窓会韓国支部	様
株式会社竹中工務店同窓会有志	様	名古屋大学全学同窓会バン格拉デシュ支部	様
株式会社デンソー	様	上海名古屋大学同窓会	様
東海旅客鉄道株式会社同窓会一同	様	名古屋大学全学同窓会タイ国支部	様
東レ株式会社同窓会一同	様	北京名古屋大学同窓会	様
豊田合成株式会社	様	名古屋大学全学同窓会ベトナム支部	様
株式会社豊田自動織機	様	名古屋大学全学同窓会カンボジア支部	様
トヨタ車体株式会社	様	名古屋大学全学同窓会モンゴル支部	様
豊田通商株式会社	様	名古屋大学全学同窓会ウズベキスタン支部	様
トヨタ紡織株式会社	様	日本特殊陶業株式会社	様
名古屋大学情報文化学部・人間情報学研究科同窓会	様	株式会社日立製作所	様

個人（第1期 平成18年3月～平成21年12月末）

澄川 泰夫 様	関谷 宏 様	祖父江 幸男 様	高崎 雅史 様	高橋 智 様
住田 篤子 様	瀬古 竜也 様	曾村 富士 様	高沢 昭典 様	高橋 繁和 様
住田 真一 様	瀬古 道子 様	大澤 博信 様	高島 敏邦 様	高橋 孝康 様
角田 俊昭 様	瀬古 芳夫 様	平 賢二 様	高瀬 常和 様	高橋 千裕 様
住友 宏 様	瀬戸口 重利 様	田浦 武雄 様	高瀬 守夫 様	高橋 統登 様
角谷 憲史 様	妹尾 久 様	田岡 康治 様	高瀬 喜祥 様	高橋 年清 様
角谷 健一郎 様	仙石 伸太郎 様	高井 直樹 様	高田 弘二 様	高橋 俊郎 様
角谷 康二郎 様	千田 耕大 様	高尾 昭夫 様	高田 悟史 様	高橋 伸知 様
角谷 忠生 様	千田 純一 様	高尾 のぞみ 様	高田 広章 様	高橋 誠 様
瀬尾 英重 様	曹 霞 様	高岡 伸行 様	高津 秀典 様	高橋 雅英 様
関 華奈子 様	宗宮 博子 様	高木 恵里 様	高津 政明 様	高橋 三千子 様
関 隆広 様	曾我 裕 様	高木 克巳 様	高西 直樹 様	高橋 通郎 様
関 信之 様	曾田 一雄 様	高木 吉郎 様	高野 英雄 様	高橋 吉広 様
関 雅樹 様	園部 一博 様	高木 賢太郎 様	高野 正光 様	高橋 良治 様
関口 明子 様	側島 文夫 様	高木 茂樹 様	高橋 淳 様	高久 真人 様
関口 増夫 様	祖父江 逸郎 様	高木 勉 様	高橋 一吉 様	高松 聡 様
関戸 淳二 様	祖父江 元 様	高木 綱義 様	高橋 神奈男 様	高松 甚造 様
関村 郁夫 様	祖父江 誠二 様	高木 直史 様	高橋 規矩 様	田上 隆 様
関谷 崇夫 様	祖父江 直久 様	高木 謙 様	高橋 賢 様	高見 直道 様
関谷 恒人 様	祖父江 保善 様	高岸 芳子 様	高橋 健治 様	高村 秀一 様

高田	森川	和智	英根	様	武多	山湖	峯和	和馬	様	田田	辺邊	忠靖	顕博	様	塚塚	田本	義一	生雅	様	寺寺	師島	晶典	様
高田	山川	相智	根彦	様	多多	湖湖	和太	馬博	様	田田	邊村	宜圓	博彦	様	塚塚	本本	健健	司進	様	寺寺	島島	二優	様
田田	川川	信信	正正	様	田田	湖湖	久太	亮亮	様	田田	溪谷	欣欣	秀哉	様	塚塚	本本	保保	夫夫	様	寺寺	田田	之介	様
滝滝	野野	夕逸	里雄	様	田田	嶋嶋	久太	明三	様	田田	谷谷	富富	哉哉	様	塚塚	本本	泰泰	司司	様	寺寺	田田	功一	様
田田	口口	和和	勇廉	様	田田	尻尻	要素	充三	様	田田	谷谷	幽香	明子	様	塚塚	山山	真真	晃三	様	寺寺	田田	司寬	様
田田	口口	和和	吉尚	様	田田	代代	恒幸	治治	様	田田	谷谷	彰彰	尚壽	様	塚塚	植植	尚正	志見	様	寺寺	田田	盛恒	様
田田	口口	泰泰	子徹	様	田田	川川	幸恭	三三	様	田田	谷谷	敬敬	興興	様	塚塚	植植	伸伸	司代	様	寺寺	田田	西常	様
武武	市市	尚尚	広俊	様	田田	花花	健泰	二二	様	田田	谷谷	敬敬	一元	様	塚塚	辻辻	千正	博博	様	寺寺	田田	昭昭	様
竹竹	市市	雅雅	明茂	様	田田	本本	勲逸	郎行	様	田田	谷谷	孝孝	男克	様	塚塚	辻辻	昌幸	康康	様	土土	井井	公昭	様
竹竹	内内	内内	松二	様	田田	川川	和和	真悟	様	田田	谷谷	敏敏	弘亮	様	塚塚	辻辻	里憲	花二	様	土土	井井	昭昭	様
武武	内内	内内	大恒	様	田田	石野	敬一	男一	様	田田	谷谷	英裕	也彦	様	塚塚	辻辻	本川	隆弘	様	土土	肥肥	敏敏	様
竹竹	内内	内内	恒稔	様	田田	所中	生英	子彦	様	田田	谷谷	津村	和英	様	塚塚	土土	屋屋	武博	様	土土	田田	芳浩	様
竹竹	内内	内内	信弘	様	田田	中中	京京	邦彦	様	田田	谷谷	村本	光計	様	塚塚	土土	屋屋	有義	様	土土	肥肥	昭昭	様
竹竹	内内	内内	弘盛	様	田田	中中	邦彦	慶啓	様	田田	谷谷	村本	均治	様	塚塚	土土	井井	昭淳	様	土土	肥肥	昭昭	様
武武	内内	内内	寛房	様	田田	中中	耕一	郎良	様	田田	谷谷	淵淵	彰城	様	塚塚	筒筒	都都	築治	様	土土	樋樋	昭昭	様
竹竹	内内	内内	雅洋	様	田田	中中	正治	郎朗	様	田田	谷谷	井岡	正賀	様	塚塚	都都	都都	築治	様	土土	道道	東東	様
竹竹	内内	内内	弘孝	様	田田	中中	二二	朗治	様	田田	谷谷	岡岡	邦邦	様	塚塚	土土	屋屋	義昭	様	土土	道道	遠遠	様
武武	内内	内内	盛行	様	田田	中中	千智	津男	様	田田	谷谷	置川	武恭	様	塚塚	土土	屋屋	井井	様	土土	道道	遠遠	様
竹竹	内内	内内	之彦	様	田田	中中	登志	尚一	様	田田	谷谷	玉玉	文啓	様	塚塚	筒筒	都都	築治	様	土土	道道	遠遠	様
竹竹	内内	内内	恒賢	様	田田	中中	秀宏	征夫	様	田田	谷谷	玉玉	直直	様	塚塚	都都	都都	築治	様	土土	道道	遠遠	様
武武	内内	内内	助樹	様	田田	中中	富士	夫俊	様	田田	谷谷	村村	行行	様	塚塚	都都	都都	築治	様	土土	道道	遠遠	様
竹竹	内内	内内	英育	様	田田	中中	昌夫	俊知	様	田田	谷谷	村村	俊俊	様	塚塚	都都	都都	築治	様	土土	道道	遠遠	様
武武	内内	内内	忠夫	様	田田	中中	正正	知裕	様	田田	谷谷	為為	水矢	様	塚塚	都都	都都	築治	様	土土	道道	遠遠	様
竹竹	内内	内内	章晃	様	田田	中中	正正	裕一	様	田田	谷谷	田田	原原	様	塚塚	都都	都都	築治	様	土土	道道	遠遠	様
建建	部部	部部	義清	様	田田	中中	義義	朗信	様	田田	谷谷	丹丹	下下	様	塚塚	都都	都都	築治	様	土土	道道	遠遠	様
武武	部部	部部	晃児	様	田田	中中	良良	彦昌	様	田田	谷谷	檀檀	上野	様	塚塚	都都	都都	築治	様	土土	道道	遠遠	様
竹竹	部部	部部	富男	様	田田	中中	義義	可昌	様	田田	谷谷	近近	手問	様	塚塚	都都	都都	築治	様	土土	道道	遠遠	様
竹竹	部部	部部	正義	様	田田	中中	良良	幸一	様	田田	谷谷	千千	念村	様	塚塚	都都	都都	築治	様	土土	道道	遠遠	様
竹竹	本本	本本	敏夫	様	田田	中中	勝勝	正彦	様	田田	谷谷	茶茶	原原	様	塚塚	都都	都都	築治	様	土土	道道	遠遠	様
竹竹	本本	本本	吉輝	様	田田	中中	昌昌	泰良	様	田田	谷谷	茶茶	原原	様	塚塚	都都	都都	築治	様	土土	道道	遠遠	様
竹竹	谷谷	谷谷	友之	様	田田	中中	瀨瀨	橋良	様	田田	谷谷	茶茶	原原	様	塚塚	都都	都都	築治	様	土土	道道	遠遠	様
竹竹	谷谷	谷谷	敏郎	様	田田	中中	橋橋	邊一	様	田田	谷谷	茶茶	原原	様	塚塚	都都	都都	築治	様	土土	道道	遠遠	様
竹竹	安山	安山	明	様	田田	中中	橋橋	邊一	様	田田	谷谷	茶茶	原原	様	塚塚	都都	都都	築治	様	土土	道道	遠遠	様

名大基金にご寄附いただいた方々

羽橋	柴本	保隆	様	服部	東信	平義	様	林林	祥武	介生	様	坂野	幹義	郎則	様	平野	一賢	男一	様
橋本	本建	次一	様	服部	部英	身明	様	林林	達達	也也	様	伴野	野嘉	彦彦	様	平野	野耕	治三	様
橋本	本孝	一郎	様	服部	部浩	博宏	様	林林	功功	子恵	様	馬場	場榮	輔治	様	平野	野潤	三一	様
橋本	本利	幸義	様	服部	部雅	夫幸	様	林林	久久	恵男	様	日比	比嘉	信達	様	平野	野善	計亮	様
橋本	本秀	樹徳	様	服部	部昌	需博	様	林林	久尚	生博	様	引樋	字口	勝智	様	平野	野尚	宏雄	様
橋本	本文	隆子	様	服部	部幸	善雄	様	林林	久英	博憲	様	樋樋	口口	尚博	様	平野	野文	雅久	様
橋本	本優	子博	様	服部	部井	政鋼	様	林林	博二	隆三	様	樋樋	口口	昌男	様	平野	野正	博弘	様
羽蓮	尻見	正恵	様	花岡	木幸	男男	様	林林	政政	三義	様	肥彦	後坂	幸典	様	平野	野善	計雄	様
長谷川	谷川	淳光	様	花羽	輪富	夫一	様	林林	保良	弘敬	様	久留	田一	俊夫	様	平野	野能	富太郎	様
長谷川	兼住	代子	様	馬場	場隆	嘉信	様	林林	良嘉	嗣彦	様	日菱	喜田	仁士	様	平野	松彰	夫理	様
長谷川	浩都	一資	様	馬濱	家正	兵桂	様	林林	義光	郎均	様	日菱	高弘	秀義	様	平野	松正	征司	様
長谷川	純一	明武	様	濱濱	口俊	道成	様	早速	瀬野	三敏	様	檜人	見野	清紹	様	廣川	岡信	光夫	様
長谷川	隆隆	武祐	様	濱濱	口崎	一寛	様	原速	水水	善範	様	樋日	廻比	宏裕	様	廣川	瀬知	善信	様
長谷川	文達	也基	様	濱濱	島島	清泰	様	原原	寛健	一郎四	様	日比	比野	義五	様	廣川	田中	知修	様
長谷川	俊仁	宏寛	様	濱濱	田田	信道	様	原原	修準	次一	様	日比	比野	利英	様	廣川	部部	伸弥	様
長谷川	寛大	誠雄	様	濱濱	野辺	清彦	様	原原	準順	一子	様	日比	比野	正鍊	様	BUI	Mai	Lan	Thi
長谷川	通利	洋彦	様	浜本	川耕	祥子	様	原波	順仲	孝広	様	日比	比野	井真	様	深谷	津原	俊健	様
長谷部	紀彦	洋里	様	早川	川祥	駿吉	様	原原	良文	正敏	様	平尾	岡哲	陸郎	様	吹福	原井	婦一	様
畑多	野恵	節司	様	早川	川健	人夫	様	原原	昌正	史行	様	平賀	賀悠	善雄	様	吹福	井井	清崇	様
波多	野孝	則一	様	早川	川敏	生智	様	原原	義良	美美	様	平賀	方川	惠昭	様	吹福	井井	昌弘	様
畑山	谷朝	美薫	様	早川	川義	一男	様	原原	口田	治純	様	平島	田田	安一	様	吹福	井尾	岡小	様
服部	部惠	一資	様	林林	部郁	伊三	様	原原	田田	濱立	様	平田	田田	富夫	様	吹福	岡岡	谷芳	様
服部	部晃	悟次	様	林林	部和	公男	様	原春	伴野	祐昭	様	平手	手永	時知	様	吹福	岡慶	澤澤	様
服部	部誠	一孝	様	林林	部宏	一佑	様	原坂	野武	男禎	様	平野	野明	昭彦	様	吹福	嶋嶋	佐千	様
服部	部孝	幸忠	様	林林	部光	秀弥	様	原坂	野野	久夫	様	平野	野逸	朗男	様	吹福	嶋島	寿論	様
服部	部龍	夫	様	林林	部昌	司	様	原坂	野野	真佐	美	平野	野真	男	様	吹福	田田	仁志	様

名大基金にご寄附いただいた方々

福	田	要	剛	様	別	府	正	義	様	本	田	松	年	様	松	井	秀	夫	様	松	元	和	一	様
福	西	平	典	様	豊	岳	澄	明	様	本	間	豊	隆	様	松	井	政	樹	様	松	本	加	子	様
福	本	一	郎	様	北	條	泰	親	様	前	川	厚	子	様	松	井	基	臣	様	松	本	幾	久	様
福	和	伸	夫	様	寶	谷	紘	一	様	前	川	整	洋	様	松	井	芳	郎	様	松	本	賢	一	様
伏		広	志	様	鋒	山	昌	弘	様	前	川	文	一	様	松	井	隆	吉	様	松	本	隆	雄	様
藤	井	昭	彦	様	保	坂		功	様	前	川	正	博	様	松	浦	啓	介	様	松	本	喬	司	様
藤	井	和	昭	様	保	坂		誠	様	前	川	正	美	様	松	浦	と	子	様	松	本	千	正	様
藤	井	善	次	様	星	川	昌	彦	様	前	田	和	聡	様	松	浦	民	好	様	松	本	哲	佳	様
富	士	拓	郎	様	星	野	和	清	様	前	田	雄	男	様	松	尾	進	一	様	松	本	博	子	様
藤	井	俊	博	様	星	野	臣	平	様	前	田	武	廣	様	松	尾	清	幸	様	松	本	博	之	様
藤	井	銛	純	様	星	野	崇	宏	様	前	田	光	貢	様	松	尾	尚	恒	様	松	本	正	之	様
藤	井	良	一	様	星	野		保	様	前	田	雄	一	様	松	尾	正	稔	様	松	本	谷	則	様
藤	川	忠	重	様	星	野	裕	子	様	前	田	芳	郎	様	松	岡	攻	則	様	松	山	喜	代	様
藤	木	智	夫	様	星	野	正	人	様	前	田	喜	和	様	松	岡	勝	一	様	松	山	盛	次	様
藤	田	純	之	様	星	野		讓	様	前	野	富	雄	様	松	岡	真	郎	様	松	山	睦	司	様
藤	田	昭	平	様	星	野		力	様	前	原	淑	子	様	松	岡	宏	典	様	松	真	野	修	様
藤	田	達	也	様	細	井	光	隆	様	前	原	昌	竹	様	松	岡	宏	守	様	松	真	野	秀	様
藤	田	治	弘	様	細	井	祐	三	様	前	山	正	敏	様	松	岡	光	恵	様	松	真	間	久	様
藤	田	秀	臣	様	細	江	貞	純	様	牧	田	知	子	様	松	川	誠	司	様	松	真	能	彦	様
藤	谷		修	様	細	島	繁	幸	様	苜	野	章	文	様	松	川	元	信	様	松	馬	淵	夫	様
藤	永		弘	様	細	田	兼	弘	様	牧	野	郁	夫	様	松	川	敏	子	様	松	真	山	男	様
藤	並		滋	様	細	野	俊	治	様	牧	野	里	美	様	松	崎	道	洋	様	松	丸	尾	誠	様
伏	原	照	子	様	細	見	友	昭	様	牧	野	憲	光	様	松	崎	保	紀	様	松	丸	地	二	様
藤	本	豊	士	様	堀	田		之	様	牧	野	泰	育	様	松	崎	岩	雄	様	松	丸	地	敏	様
藤	本	泰	功	様	堀	田	雅	裕	様	牧	原	正	宏	様	松	下	雋	秀	様	松	丸	茂	美	様
藤	原		修	様	堀	田	恵	子	様	正	村	木	史	様	松	下	裕	秀	様	松	丸	屋	一	様
藤	原	賢	司	様	堀	田	将	寛	様	正	村	隆	幸	様	松	下	恵	子	様	松	丸	山	行	様
布	施	成	章	様	堀	田	洋	一	様	増	田	好	平	様	松	島	伸	男	様	松	丸	若	徳	様
伏	屋	久	則	様	堀	田	光	治	様	増	田	末	雄	様	松	島	啓	明	様	松	三	浦	幸	様
二	村	良	博	様	堀	田	琢	三	様	増	田	晃	啓	様	松	田	年	保	様	松	三	浦	明	様
二	村	一	郎	様	堀	田	正	守	様	増	田	真	久	様	松	田	直	彦	様	松	三	浦	二	様
太	戸	忠	幸	様	堀	田	江	人	様	増	田	勇	三	様	松	田	實	子	様	松	三	上	美	様
船	橋	隆	夫	様	堀	尾	源	吾	様	増	田	義	彦	様	松	平	高	胤	様	松	三	木	市	様
舟	橋	孝	司	様	堀	尾	竹	弘	様	増	山	雄	一	様	松	永	英	吾	様	松	三	木	弘	様
舟	井	雅	人	様	堀	川	隆	良	様	間	瀨	健	二	様	松	永	憲	高	様	松	三	澤	昭	様
古	川	壽	康	様	堀	田	康	雄	様	間	瀨	淑	子	様	松	浪	有	高	様	松	三	澤	人	様
古	田	高	雄	様	堀	畑	武	博	様	間	瀨	辰	男	様	松	成	彩	子	様	松	三	嶋	信	様
古	田	隆	則	様	堀	部	道	子	様	町	田	喜	夫	様	松	野	宏	樹	様	松	水	越	忍	様
古	田	裕	之	様	堀	宮	幸	男	様	松	井		健	様	松	野	篤	二	様	松	水	嶋	人	様
古	田	不	佐	様	堀	本	秀	次	様	松	井		勲	様	松	林	孟	生	様	松	水	田	環	様
古	田	牧	男子	様	堀	本	晴	朗	様	松	井		夫	様	松	林	直	和	様	松	水	谷	彦	様
古	田	陽	子	様	堀	本	治	行	様	松	井		美	様	松	原	治	子	様	松	水	谷	治	様
古	田	理	枝	様	堀	本	英	子	様	松	井		作	様	松	原	盛	之	様	松	水	谷	二	様
古	橋	忠	晃	様	堀	本	金	泰	様	松	井		健	様	松	見	豊	司	様	松	水	谷	三	様
古	本	恭	久	様	堀	本	隆	広	様	松	井		昭	様	松	村	康	男	様	松	水	谷	孝	様
古	屋	正	仁	様	堀	本	信	義	様	松	井		悦	様	松	村	哲	郎	様	松	水	谷	武	様
古	破		勝	様	堀	本	秀	昭	様	松	井		也	様	松	村	年	瑳	様	松	水	谷	雄	様
文		孝	益	様	堀	本	啓		様	松	井		夫	様	松	本	伊	子	様	松	水	谷	郎	様

水	谷	法	美	様	宮	川	和	利	様	連	史	久	様	森	澤	敏	雄	様	柳	田	俊	一	様
水	谷	寛	典	様	宮	川	光	治	様	村	瀬	美	様	森	下	佳	奈	様	柳	田	征	史	様
水	谷	昌	展	様	宮	川		武	様	村	瀬	一	様	森	下	俊	三	様	柳	瀬	仁	茂	様
水	谷	守	一	様	宮	川		勉	様	村	瀬	夫	様	森	下	忠	司	様	柳	瀬	真	紀	様
水	谷	泰	則	様	宮	川		浩	様	村	瀬	保	様	森	下	保	廣	様	矢	野	華	代	様
水	谷	由	起	様	宮	城	晴	明	様	村	瀬	芳	様	森	下	孝	孝	様	矢	野	野	清	様
水	谷	良	亮	様	三	宅	和	男	様	村	瀬	俊	様	森	下	逸	宏	様	矢	野	亨	治	様
水	沼	茂	行	様	三	宅	謙	作	様	村	瀬	美	様	森	田	宏	薫	様	矢	野	野	武	様
水	野	勝	博	様	三	宅	則	英	様	村	田	浩	様	森	田	宏	義	様	八	幡	大	純	様
水	野	岸	夫	様	三	宅	正	武	様	村	田	清	様	森	田	義	幸	様	敷	吹	昌	巳	様
水	野	清	史	様	三	宅	通	裕	様	村	田	光	様	森	田	博	己	様	矢	田	信	次	様
水	野	金	平	様	三	宅	康	博	様	村	田	弘	様	森	田	裕	子	様	山	秋	悦	宏	様
水	野	耕	太	様	宮	崎	典	子	様	村	田	教	様	森	森	光	夫	様	山	内	内	信	様
水	野	信	也	様	宮	崎	正	昭	様	村	手	慎	様	森	森	西	文	様	山	内	内	嘉	様
水	野	嗣	也	様	宮	崎	正	澄	様	村	西	七	様	森	森	原	章	様	山	内	内	邦	様
水	野	哲	久	様	宮	崎	禎	仁	様	村	主	稔	様	森	森	光	努	様	山	内	内	公	様
水	野	直	樹	様	宮	里	敏	光	様	村	山	明	様	森	森	村	正	様	山	内	内	孝	様
水	野	宣	彦	様	宮	下	一	昭	様	室	原	豊	様	森	森	本	樹	様	山	内	内	崇	様
水	野	伸	彦	様	宮	下	俊	夫	様	毛	受	雅	様	森	森	本	巴	様	山	内	内	拓	様
水	野	日	出	様	宮	田	健	一	様	毛	利	順	様	森	守	正	茂	様	山	内	内	陸	様
水	野	博	之	様	宮	田	隆	司	様	毛	利	史	様	森	谷	佳	子	様	山	内	内	豊	様
水	野	義	勝	様	宮	田	栄	市	様	毛	利	隆	様	八	山	英	行	様	山	内	内	政	様
水	野	里	香	様	宮	地	廣	美	様	毛	刈	恵	様	焼	田	寿	治	様	山	内	内	良	様
水	村	和	枝	様	宮	原	隆	洋	様	望	月	昭	様	八	師	栄	次	様	山	内	内	岡	様
水	谷	直	正	様	宮	本	和	子	様	望	月	大	様	八	島	正	男	様	山	内	内	形	様
三	道	井	一	様	宮	本	仲	自	様	望	月	貴	様	安	代	健	二	様	山	内	内	勝	様
光	三	井	健	様	宮	本	宗	樹	様	本	川	正	様	安	井	俊	二	様	山	内	内	川	様
三	井	斌	友	様	三	芳	研	二	様	森	森	銀	様	安	井	善	朗	様	山	内	内	川	様
光	岡	金	光	様	三	吉	範	昌	様	森	森	千	様	安	江	直	人	様	山	内	内	岸	様
光	岡	秀	人	様	三	輪	悦	夫	様	森	森	鶴	様	安	江	範	巳	様	山	内	北	光	様
三	日	市	朗	様	三	輪	昭	之	様	森	森	智	様	安	江	政	和	様	山	内	口	啓	様
三	家	外	明	様	三	輪	輝	男	様	森	森	浩	様	安	田	修	子	様	山	内	口	啓	様
三	矢	英	輔	様	三	輪	雅	代	様	森	森	博	様	安	田	と	明	様	山	内	口	研	様
三	矢	久	誠	様	三	向	井	直	様	護	森	美	様	安	田	浩	志	様	山	内	口	啓	様
緑	川	久	宏	様	向	尾	孝	彦	様	森	本	鈴	様	安	田	政	伸	様	山	内	口	啓	様
翠	川	光	和	様	向	田	好	一	様	森	靖	弘	様	安	田	幸	浩	様	山	内	口	啓	様
皆	川	正	美	様	武	藤	英	幸	様	森	保	宏	様	安	野	志	津	様	山	内	口	啓	様
湊	出	裕	子	様	武	藤	裕	文	様	森	陽	一	様	安	福	幸	雄	様	山	内	口	啓	様
南	皆	重	幸	様	武	藤	正	美	様	森	敏	晴	様	八	谷	寛	修	様	山	内	口	啓	様
峰	根	慎	二	様	村	井	文	深	様	森	岡	平	様	柳	育	生	宏	様	山	内	口	啓	様
三	峰	松	之	様	村	上	勝	彦	様	森	岡	二	様	柳	充	子	治	様	山	内	口	啓	様
美	濃	羽	英	様	村	上	澄	男	様	森	川	浩	様	柳	沢	新	史	様	山	内	口	啓	様
宮	池	克	人	様	村	上	隆	寛	様	森	川	治	様	柳	沢	博	史	様	山	内	口	啓	様
宮	内	政	信	様	村	上	木	芳	様	森	川	康	様	柳	沢	田	頭	様	山	内	口	啓	様
宮	尾	保	行	様	村	村	雲		様	森	川		様	柳	田			様	山	内	口	啓	様
宮	垣	仁	實	様	村	村			様	森	川		様	柳	田			様	山	内	口	啓	様

名大基金にご寄附いただいた方々

山	口	善	久	様	山	田	満	様	山	本	祐	平	様	吉	田	強	様	和	田	正	英	様		
山	崎	敬	之	様	山	田	基	様	山	家	森	善	様	吉	田	俊	和	和	田	正	弘	様		
山	崎	仁	志	様	山	田	保	様	山	鐘	田	幸	様	吉	田	田	宏	和	田	光	弘	様		
山	崎	浩	一	様	山	田	豊	様	山	湯	浅	博	様	吉	田	田	宏	和	田	康	宏	様		
山	崎	文	郎	様	山	田	子	様	山	結	城	子	様	吉	田	博	道	和	田	田	裕	司	様	
山	崎	真	明	様	山	田	幹	様	山	湯	川	保	様	吉	田	政	志	和	田	田	吉	則	様	
山	崎	昌	男	様	山	寺	雄	様	山	行	友	紀	様	吉	田	守	孝	和	渡	瀬	隆	一	様	
山	澤	弘	実	様	山	倭	人	様	山	柚	原	誠	様	吉	田	康	史	和	渡	辺	昭	宏	様	
山	下	興	亜	様	山	名	彦	様	山	湯	本	秀	様	吉	田	康	秀	和	渡	辺	和	彦	様	
山	下	修	順	様	山	中	夫	様	山	与	語	康	様	吉	田	祐	人	和	渡	邊	喜	一	様	
山	下	廣	順	様	山	中	郎	様	山	横	井	詠	様	吉	田	佳	督	和	渡	辺	耕	司	様	
山	下	淳	子	様	山	中	也	様	山	横	井	茂	様	吉	田	留	眞	和	渡	邊	耕	司	様	
山	下	伸	介	様	山	中	之	様	山	横	井	次	様	吉	田	永	光	和	渡	辺	浩	二	様	
山	下	照	雄	様	山	中	誠	様	山	横	井	郎	様	吉	田	野	健	和	渡	辺	敏	様		
山	下	永	晴	様	山	中	都	様	山	横	井	行	様	吉	田	久	徹	和	渡	部	三	郎	様	
山	下	久	隆	様	山	西	夫	様	山	横	井	義	様	吉	村	拓	三	和	渡	辺	十一	郎	様	
山	下	英	城	様	山	根	隆	様	山	横	井	太	様	吉	村	秀	男	和	渡	邊	俊	司	様	
山	下	博	之	様	山	根	夫	様	山	横	井	益	様	吉	村	正	和	和	渡	邊	誠	一	様	
山	下	洋	一	様	山	根	宏	様	山	横	井	三	様	吉	村	光	央	和	渡	辺	孝	司	様	
山	下	恭	孝	様	山	之内	男	様	山	横	内	和	様	吉	本	繁	久	和	渡	邊	崇	司	様	
山	田	昭	廣	様	山	本	夫	様	山	横	江	牧	様	米	川	佳	人	和	渡	邊	高	年	様	
山	田	章	博	様	山	本	彦	様	山	横	江	基	様	米	田	太	一	和	渡	邊	忠	比	古	様
山	田	英	治	様	山	本	視	様	山	横	川	秀	様	米	村	芳	昭	和	渡	辺	達	夫	様	
山	田	勝	成	様	山	本	良	様	山	横	田	昭	様	米	村	保	夫	和	渡	辺	敏	和	様	
山	田	喜	九	様	山	本	才	様	山	横	田	圭	様	寄	田	英	徹	和	渡	辺	敏	和	様	
山	田	清	文	様	山	本	彦	様	山	横	谷	順	様	李	李	鍾	國	和	渡	辺	俊	樹	様	
山	田	金	一	様	山	本	弘	様	山	横	山	昭	様	龍	華	一	男	和	渡	邊	豊	英	様	
山	田	景	子	様	山	本	之	様	山	横	山	勝	様	若	尾	祐	司	和	渡	邊	八	郎	様	
山	田	健	司	様	山	本	二	様	山	横	山	俊	様	若	子	敦	弘	和	渡	辺	恒	様		
山	田	憲	治	様	山	本	一	様	山	横	山	基	様	若	杉	武	志	和	渡	辺	久	士	様	
山	田	健	太	様	山	本	夕	様	山	横	山	幸	様	若	杉	雄	志	和	渡	邊	英	子	様	
山	田	耕	士	様	山	本	剛	様	山	吉	井	才	様	若	園	博	美	和	渡	邊	人	之	様	
山	田	茂	生	様	山	本	恒	様	山	吉	井	由	様	若	林	茂	正	和	渡	辺	広	次	様	
山	田	修	造	様	山	本	剛	様	山	吉	岡	龍	様	若	林	淳	様	和	渡	辺	孫	也	様	
山	田	申	一	様	山	本	利	様	山	吉	川	清	様	若	林	と	義	和	渡	邊	正	人	様	
山	田	信	二	様	山	本	信	様	山	吉	川	卓	様	若	森	孝	士	和	渡	邊	道	典	様	
山	田	忠	示	様	山	本	信	様	山	吉	川	昇	様	若	山	英	博	和	渡	辺	三	一	様	
山	田	太	郎	様	山	本	登	様	山	吉	澤	富	様	若	山	裕	司	和	渡	邊	実	典	様	
山	田	伝	夫	様	山	本	鉞	様	山	吉	田	昭	様	脇	田	一	美	和	渡	邊	泰	治	様	
山	田	輝	久	様	山	本	久	様	山	吉	田	明	様	脇	田	三	恵	和	渡	邊	雄	二	様	
山	田	敏	夫	様	山	本	英	様	山	吉	田	修	様	雙	田	秀	樹	和	渡	邊	洋	佑	様	
山	田	俊	彦	様	山	本	文	様	山	吉	田	之	様	鷺	田	敏	一	和	渡	邊	義	典	様	
山	田	利	幸	様	山	本	之	様	山	吉	田	明	様	鷺	田	俊	司	和	渡	邊	芳	人	様	
山	田	壽	美	様	山	本	明	様	山	吉	田	正	様	鷺	田	神	酒	和	渡	邊	原	英	様	
山	田	正	彦	様	山	本	実	様	山	吉	田	真	様	鷺	田	神	酒	和	渡	邊	原	英	様	
山	田	正	広	様	山	本	夫	様	山	吉	田	武	様	早	稲	田	努	和	渡	邊	王	瑠	様	
山	田	勝	様	様	山	本	密	様	山	吉	田	豪	様	和	田	壽	弘	和	渡	邊	王	莉	様	

名古屋大学基金へのご寄附をお願い申し上げます。

ご寄附は、1口 10,000円からお受けしています。

ご寄附については、所得控除等の税法上の優遇措置がございます。

詳しくは、ホームページ (<http://www.nagoya-u.ac.jp/kikin/>) をご覧ください。

問い合わせ先

総務部総務課 (基金推進室)

Tel 052-789-4993、2011

Eメール kikin@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成23年 1月16日～2月15日]

記事	月日	新聞等名
1 森際康友法学研究科教授は大阪弁護士会が弁護士の懲戒処分情報をホームページに掲載したことについて、『『市民視線』に立った取り組みの一步』と話す	1.16 (日)	朝日 (朝刊) 大阪版
2 西村浩一環境学研究科教授は表層雪崩について解説する	1.16 (日)	読売
3 講演会「益川流・フラフラのすすめ」開催：14日 益川敏英本学特別教授が講演	1.16 (日)	読売
4 本学は名古屋市内に次世代航空機素材を開発するための研究施設を開設する構想に参加する見通し	1.16 (日)	読売
5 愛知県立大学講演会「ゼロエミッション ITS への挑戦」開催：18日 森川高行環境学研究科教授が講演	1.16 (日)	中日 (朝刊)
6 本学と東京工業大学、高エネルギー加速器研究機構、東京大学などは共同でパルスX線・レーザー光が作る100億分の1秒間だけ現れる新しい物質の構造の検出に成功する	1.17 (月)	日刊工業
7 現代日本誤百科 (371)：「洒落にならない給料」町田 健文学研究科教授	1.17 (月)	中日 (朝刊)
8 「ポスト COP10フォーラム」開催：16日 林 良嗣環境学研究科教授が講演	1.17 (月)	中日 (朝刊) 読売
9 本学などで探査機「はやぶさ」が回収した微粒子の初期分析が始まる	1.18 (火)	日経 (朝刊) 他2社
10 本学は文部科学省と経済産業省が乗り出した大学とトップ企業との連携による「世界で勝てる人材」の育成・登用プロジェクトへの参加に合意する	1.18 (火)	読売
11 現代日本誤百科 (372)：自分は「無関係だと豪語する」町田 健文学研究科教授	1.18 (火)	中日 (朝刊)
12 教養教育院プロジェクトギャラリー clas 展覧会「IMaC CAMERA 3」開催：17日～21日 茂登山清文情報科学研究科准教授は「学生が写真を通じて伝えようとしていることを感じてほしい」と話す	1.18 (火)	中日 (朝刊)
13 小笠原有美さん本学学生は中日新聞「学生之新聞」の特集「10年後の人のつながりは」の学生取材スタッフを務める	1.18 (火)	中日 (朝刊)
14 本 秀紀法学研究科教授の名古屋市議会の議員報酬検討会議メンバーへの起用が内定する	1.18 (火)	中日 (朝刊)
15 「歴史建造物『名古屋市公会堂』語る、観る、触れる」開催：2月1日 西澤泰彦環境学研究科准教授が講演	1.18 (火) 1.29 (土)	中日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
16 本学とトヨタ自動車株式会社および株式会社豊田中央研究所の研究チームは、光合成するたんぱく質をガラス粒子の中に閉じ込め、光を照射し酸素と電流を取り出すことに成功する	1.18 (火) 2.11 (金)	日刊工業 朝日 (朝刊)
17 ミニ講演会サロン ABC「名古屋市政のゆくえ」開催：2月7日 小野耕二法学研究科教授	1.18 (火)	中日 (夕刊)
18 松本邦弘理学研究科教授、花房 洋同助からは癌細胞の増殖抑制への応用に期待される細胞増殖に重要な EGF 受容体の細胞内輸送メカニズムを明らかにする	1.19 (水)	中日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
19 松本真理子発達心理精神科学教育研究センター教授が次期同センター長に選出される	1.19 (水)	中日 (朝刊)
20 現代日本誤百科 (373)：日本との「彼我」の差 町田 健文学研究科教授	1.19 (水)	中日 (朝刊)
21 伊藤秀章エコトピア科学研究所特任教授を中心に中部地方の大学や企業で発足した「レアメタル資源再生技術研究会」に参加する株式会社鈴木商事の事業内容が紹介される	1.19 (水)	日刊工業
22 博物館特別講演会「化石のメカニズムを探る」開催：2月12日	1.19 (水)	中日 (朝刊)
23 「第8回キャンパスベンチャーグランプリ中部」：渡瀬友亮さん本学大学院生が日刊工業新聞社賞を受賞	1.19 (水)	日刊工業
24 公開シンポジウム「花祭りの発展的継承を考える」開催：29、30日 羽賀祥二文学研究科教授が講演	1.19 (水) 1.20 (木) 1.22 (土)	中日 (夕刊) 中日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
25 益川敏英本学特別教授の似顔絵の焼印が押された名古屋大学生協の商品「名大饅頭」「名大せんべい」が紹介される	1.20 (木)	読売
26 現代日本誤百科 (374)：「床山を仲介して」賭博 町田 健文学研究科教授	1.20 (木)	中日 (朝刊)
27 「数理ウェーブ」開催：22日 大沢健夫多元数理科学研究科教授が話す	1.20 (木)	中日 (朝刊)
28 憲法と教育を守る愛知の会講演会開催：23日 中嶋哲彦教育発達科学研究科教授が講演	1.20 (木)	中日 (朝刊)
29 名大カフェ“Science, and Me”第8回「がんと遺伝子」開催：2月3日 濱川総長と武田 穰産学官連携推進本部教授が対談	1.20 (木)	中日 (朝刊)
30 本学で19日に「新聞社のメディア戦略」と題して「読売新聞特別講座」が開かれ、参加したハインリッヒ・シェルプさん本学学生は「新たなビジネスモデルの構築は大変だと思った」と話す	1.20 (木)	読売
31 家森信善経済学研究科教授は愛知県知事選に関して、「知事は変化が痛みを伴うことを含めて県民を説得し、変化を先取りしていくことが最大の仕事」と語る	1.21 (金)	読売
32 和田 肇法学研究科教授は「反貧困ネットワークあいち」の共同代表を務め、愛知県知事選候補者に対して貧困の問題にも目を向けて欲しいと語る	1.21 (金)	朝日 (朝刊)
33 本学陸上競技部とそのOBから発足した名大倶楽部が第65回名岐駅伝競走大会に出場するチームとして紹介される	1.21 (金)	中日 (朝刊)
34 本学と名古屋銀行が産学連携協定を締結	1.22 (土)	日経 (朝刊)
35 「ノーベル賞受賞者と小中高生の交流会」開催：3月6日 小林 誠本学特別教授が小中学生と実験を行う	1.22 (土)	読売
36 本学などの学生たちと名古屋市長選候補予定者との意見交換会が行われる	1.22 (土)	中日 (朝刊) 他2社
37 野依良治本学特別教授は日本の科学技術力について論説する	1.23 (日)	読売
38 心の風景：益川敏英本学特別教授は空襲を受けた後の鶴舞公園と焼け野原について語る	1.23 (日)	読売

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成23年1月16日～2月15日]

記事	月日	新聞等名
39 現代日本誤百科 (375)：今回の発表は「注目だ」町田 健文学研究科教授	1.23 (日)	読売
40 ヨミドクター1周年記念大腸がんフォーラム開催：室 圭医学部附属病院非常勤講師が講演	1.24 (月)	読売
41 森 重文本学特別教授は京都大学数理解析研究所長に就任する	1.24 (月)	日経 (朝刊)
42 本学は4月より東山キャンパスを全面禁煙にする	1.24 (月)	読売
43 環境学研究科の学生たちが運営する「名チャリ社会実験2011」が金山地区周辺で始まる	1.25 (火)	読売 中日 (朝刊)
44 金井篤子教育発達科学研究科教授は待機児童対策を検討する名古屋市保育施設検討会議の会長に選ばれる	1.25 (火)	中日 (朝刊)
45 水田 洋本学名誉教授の蔵書が本学附属図書館に「水田文庫」として収蔵され、来春公開へ向け整理が進む様子が紹介される	1.25 (火)	中日 (朝刊)
46 松岡 信生物機能開発利用研究センター教授と上口美弥子同准教授の、植物ホルモン「ジベレリン」に関する研究業績やコメントが紹介される	1.25 (火)	中日 (朝刊)
47 知的障害者支援者養成講座開催：2月20日、26日 辛島千恵子医学部保健学科教授が講演	1.25 (火)	朝日 (夕刊)
48 ミニ講演会サロンABC「名古屋市政のゆくえ」開催：2月7日 小野耕二法学研究科教授が講演	1.25 (火)	朝日 (夕刊)
49 濱口総長は国立大学協会で就職問題を担当し、新卒者の就職活動の早期化長期化に対する経済界の是正策について、「意味のある一歩」としながら「就職活動は会社説明会を含めて最終学年になってから始めるべき」と語る	1.26 (水)	読売 朝日 (朝刊)
50 訃報：原田武雄本学名誉教授	1.26 (水)	中日 (朝刊) 他2社
51 大路樹生博物館教授は第54回日本学生科学賞の総合委員を務める	1.26 (水)	読売
52 現代日本誤百科 (376)：「問題がわき上がる」町田 健文学研究科教授	1.26 (水)	中日 (朝刊)
53 家森信善経済学研究科教授は金融庁金融審議会委員に選任される	1.26 (水)	中日 (朝刊)
54 ミクロの探検隊「電子顕微鏡でみる野鳥のミクロ世界」開催：2月11日	1.26 (水)	中日 (夕刊)
55 現代日本誤百科 (377)：「憮然とした表情で返答」する 町田 健文学研究科教授	1.27 (木)	中日 (朝刊)
56 岡本美紀さん本学学生は自分の就職活動を振り返り、「迷走していた」と話す	1.28 (金)	中日 (朝刊)
57 本学と立命館大学の協力のもと日本ストリートダンススタジオ協会が小中学校・高等学校の授業で導入されるストリートダンスの教育プログラムを開発する	1.28 (金)	日刊工業
58 岡崎竜二理学研究科助教、京都大学、日本原子力研究開発機構などの研究グループは、極めて低温のウラン化合物を用いた実験により新しい電子状態が存在することを解明する	1.28 (金)	中日 (朝刊)
59 平成22年度「第4回地球教室－親子対象フィールドセミナー－鉱物を探そう！」開催：2月26、27日	1.28 (金) 1.31 (月)	読売 中日 (朝刊)
60 紙つぶて：フレデリック追想 森 郁恵理学研究科教授	1.28 (金)	中日 (夕刊)
61 小児がん医療を考えるシンポジウム「求められる入院中の子どもと家族の支援」開催：2月27日 小島勢二医学系研究科教授が講演、若林俊彦医学部附属病院教授がシンポジストとして参加	1.29 (土)	朝日 (朝刊)
62 ゆうかんさん：堀場美咲さん教育学部附属高等学校生は坂野慶太さん同高等学校生とペアを組み「エコノミクス甲子園」東海大会で優勝し、「高校生らしいことがしたくて出場した」と語る	1.29 (土)	中日 (夕刊)
63 書籍：「クラゲに学ぶ ノーベル賞への道」下村 脩本学特別教授著	1.30 (日)	朝日 (朝刊)
64 12月14日に開催された座談会「人と環境に優しい自転車社会を目指して」での森川高行環境学研究科教授の発言が紹介される	1.30 (日)	朝日 (朝刊)
65 佐々木重洋文学研究科准教授は29日に開催された公開シンポジウム「花祭りの発展的継承を考える」を企画し、「地域住民の安定した生活など、条件が整っていなければ、祭りは衰退する」と話す	1.30 (日)	中日 (朝刊)
66 京都産業大学益川塾第1回シンポジウム「創造する喜び」開催：益川敏英本学特別教授がパネリストとして参加	1.31 (月)	朝日 (朝刊)
67 現代日本誤百科 (378)：「家族にうれしい」町田 健文学研究科教授	1.31 (月)	中日 (朝刊)
68 水田 洋本学名誉教授ら「市政の民主主義を守る十四人の会」が、名古屋市議会解散を問う住民投票の模擬投票を行う	1.31 (月)	中日 (朝刊)
69 森際康友法学研究科教授が行う対話型授業に「事前の予習が不可欠な難易度の高い授業」として意欲のある学生が集まる	1.31 (月)	朝日 (朝刊)
70 松尾清一医学部附属病院長は慢性腎臓病について解説する	2. 1 (火)	中日 (朝刊)
71 訃報：坂尾 弘本学名誉教授	2. 1 (火)	中日 (朝刊) 他2社
72 現代日本誤百科 (379)：「言わずもした」町田 健文学研究科教授	2. 1 (火)	中日 (朝刊)
73 竹本大吾生命農学研究科助教らのグループはイネ科牧草に共生するエンドファイトの共生確立に必要な遺伝子を発見する	2. 1 (火) 2. 4 (金)	中日 (朝刊) 日刊工業 読売
74 小川 光経済学研究科教授は愛知県知事選候補者の公約を検証する	2. 2 (水)	中日 (朝刊)
75 現代日本誤百科 (380)：「乗り切れないお客さま」町田 健文学研究科教授	2. 2 (水)	中日 (朝刊)
76 加藤延夫元本学総長は医学部新設について私見に基づく提案をする	2. 2 (水)	読売
77 上田 実医学系研究科教授らは脳梗塞や脊髄損傷の治療に用いる点鼻薬を開発する	2. 2 (水)	日経 (朝刊) 毎日 (夕刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成23年 1月16日～2月15日]

記事	月日	新聞等名
78 小川 光経済学研究科教授は名古屋市長選について検証し、「財源を具体的に提示してくれないと市民は信用できない」と指摘する	2. 3 (木)	中日 (朝刊)
79 現代日本誤百科 (381):「たそがれた人」町田 健文学研究科教授	2. 3 (木)	中日 (朝刊)
80 叙位叙勲:丹羽 淳本学名誉教授 従四位瑞宝小綬章	2. 3 (木)	読売
81 モンゴル書道家 オドントヤ・バヤンバ氏によるギャラリートーク及びモンゴル書道(硬筆)教室開催:19日	2. 3 (木) 2. 4 (金)	中日 (朝刊) 読売
82 博物館第17回企画展「草原の民モンゴリアンー伝統と現代社会の狭間でー」開催:8日～3月5日	2. 4 (金)	読売
83 12月7日に開催された「ベンチャー SPIRITS 2010 in 名古屋」での山田基成経済学研究科准教授の講演内容が紹介される	2. 4 (金)	読売
84 陸上の中長距離で活躍する鈴木亜由子さん本学学生について陸上競技部の金尾洋治監督は「30年近く名大で指導してきたがここまでの選手は初めて。トラック競技で五輪を狙ってほしい」と話す	2. 5 (土)	中日 (朝刊)
85 医学部附属病院気管支喘息患者相談会開催:3月2日	2. 5 (土)	朝日 (朝刊)
86 スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 特別講演会開催:3日 松尾清一医学部附属病院長が教育学部附属高等学校で講演	2. 7 (月)	中日 (朝刊)
87 現代日本誤百科 (382):「常軌を外れる」町田 健文学研究科教授	2. 7 (月)	中日 (朝刊)
88 大野雄高工学研究科准教授とアールト大学の研究グループは世界で初めてプラスチック基板上でのカーボンナノチューブ集積回路の動作に成功する	2. 8 (火)	日刊工業
89 医学部附属病院で実施されている新人看護師対象のローテーション研修が紹介される	2. 8 (火)	中日 (朝刊)
90 現代日本誤百科 (383):「エレベーターに1時間閉じ込め」町田 健文学研究科教授	2. 8 (火)	中日 (朝刊)
91 家森信善経済学研究科教授は愛知県知事選・名古屋市長選の結果について「愛知県、名古屋市も『どの支出を削るのか』を真剣に考えなければならない」と話す	2. 8 (火)	読売
92 中国残留邦人等への理解を深めるシンポジウム開催:12日 櫻井龍彦国際開発研究科教授がパネリストとして参加	2. 8 (火)	中日 (朝刊)
93 医学部附属病院は4月から江南厚生病院に腎臓内科の医師を1人派遣する	2. 8 (火)	中日 (朝刊)
94 現代日本誤百科 (384):「目上への寸志」町田 健文学研究科教授	2. 9 (水)	中日 (朝刊)
95 第9回 spcafé「氷河や雪渓を測り続けてわかること」開催:21日 藤田耕史環境学研究科准教授が講演	2. 9 (水)	中日 (朝刊)
96 第11回日本学会会議「サイエンスカフェ in 名古屋」開催:26日 伊丹健一郎理学研究科教授が「分子をつなげて価値を生むクロスカップリングーナノの世界の建築、ノーベル化学賞、未来」と題して講演する	2. 9 (水)	中日 (朝刊)
97 松本邦弘理学研究科教授、久本直毅同准教授らはアルツハイマー病原因遺伝子の逆行輸送メカニズムを明らかにする	2. 9 (水) 2.10 (木)	読売 他3社 日経 (朝刊)
98 現代日本誤百科 (385):「気分がふさぐ」町田 健文学研究科教授	2.10 (木)	中日 (朝刊)
99 NPO 法人心技塾ネットワーク月例会100回記念講演会開催:3月5日 平野真一元本学総長が講演	2.10 (木)	読売
100 特別講演会「モンゴルから見た日本、日本から見たモンゴルーよりよいパートナーシップ構築のためにー」開催:28日	2.10 (木)	中日 (朝刊)
101 豊田講堂がロングライフビル推進協会の第20回 BELCA 賞ベストリフォーム部門に選ばれる	2.10 (木)	日刊建設通信 日刊建設工業
102 河江肖剰さん本学大学院生は混乱の続くエジプトで遺跡の発掘作業を続ける	2.10 (木)	中日 (夕刊)
103 鈴木和博年代測定総合研究センター教授が豊田市でみつけたキツネの死骸の放射性炭素などを測定・分析した結果、背景にある里山と人間のバランスが明らかになる	2.10 (木)	朝日 (夕刊)
104 本学で行われた読売新聞特別講座後期が終了し、受講したダシバルバル・カンガバータルさん本学大学院生の感想が紹介される	2.11 (金)	読売
105 新井史人工学研究科教授らは細胞の切断などに利用できる高精度の磁気駆動式装置を完成する	2.15 (火)	日刊工業
106 本学に中部航空宇宙技術センターが産学官連携の炭素繊維複合材研究拠点「ナショナル・コンポジットセンター」を設置する構想が最終調整段階を迎える	2.15 (火)	読売
107 現代日本誤百科 (386):小説と「同じく作って」ある 町田 健文学研究科教授	2.15 (火)	中日 (朝刊)
108 国際開発研究科創立20周年記念講演・記念シンポジウム開催:3月4日	2.15 (火)	中日 (朝刊)
109 松岡利昌施設計画推進室特任准教授は企業施設の戦略マネジメントについて語る	2.15 (火)	日経 (朝刊)

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

1月11日(火)～3月31日(木)

場 所: 博物館 2階展示室

時 間: 10:00～16:00

休 館 日: 日・月曜日

入 場 料: 無料

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

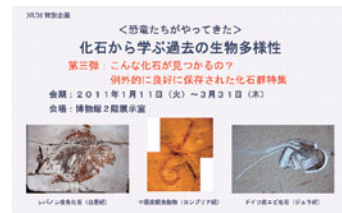
博物館企画展

「恐竜たちがやってきた

ー化石から学ぶ過去の生物多様性ー」

テ ー マ: 「第3弾: こんな化石が見つかるの?

例外的に良好に保存された化石群特集」



3月8日(火)～4月9日(土)

場 所: 博物館 2階展示室、

野外観察園セミナーハウス 2階

時 間: 10:00～16:00

入 場 料: 無料

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

ボタニカルアート作品展

内 容: 東海林富子氏の作品を中心に展示



3月14日(月)～3月16日(水)

場 所: 高等総合研究館

カンファレンスホール

時 間: 9:30～17:00

参 加 費: 無料

[問い合わせ先]

太陽地球環境研究所

教授 徳丸宗利 052-747-6330

太陽地球環境研究所

平成22年度太陽圏シンポジウム

内 容: 国立天文台や大学の研究者による太陽圏に関する最新の研究成果を

報告・議論

3月17日(木)

場 所: 野依記念学術交流館

時 間: 9:30～17:30

[問い合わせ先]

理学研究科

教授 伊丹健一郎 052-788-6098

グローバル COE プログラム

「分子性機能物質科学の国際教育研究拠点形成」

RCMS 有機化学国際シンポジウム及び

第7回平田義正先生追悼記念レクチャー



3月17日(木)

場 所: 医学系研究科附属

医学教育研究支援センター

実験動物部門南側供養碑前

時 間: 14:00～14:45

[問い合わせ先]

医学系研究科附属医学教育研究支援センター

実験動物部門 052-744-2469

医学部・医学系研究科

動物慰霊祭

3月17日(木)、3月24日(木)

場 所: 留学生センター 2階

207号室 (3/17)

全学教育棟北棟406教室 (3/24)

時 間: 17:00～18:30 (3/17)

15:30～17:00 (3/24)

参 加 費: 無料

[問い合わせ先]

国際言語文化研究科

教授 堀江 薫 horieling@gmail.com

国際言語文化研究科

第4回、第5回公開講演会

テ ー マ: 「名詞における項の選択と事象性」(3/17)

講 演 者: 小野尚之氏 (東北大学教授)

テ ー マ: 「認知言語学からみた外国語教育の展望」(3/24)

講 演 者: 山梨正明氏 (京都大学教授)



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

3月18日(金)

場 所：環境医学研究所動物慰霊碑前
時 間：16:00～16:30

環境医学研究所
動物慰霊祭

[問い合わせ先]

研究所事務部総務課
第2庶務掛 052-789-3886

3月19日(土)

場 所：経済学部カンファレンスホール
時 間：10:00～12:00
参 加 費：無料

名古屋大学オープンカレッジ
「自由奔放！サイエンス」

講演題目：「基軸通貨『ドル』の運命」
講 演 者：奥村隆平（経済学研究科教授）

[問い合わせ先]

経済学研究科エクステンション・サービス
ecoextender@soec.nagoya-u.ac.jp

3月21日(月)～3月24日(木)

場 所：多元数理科学研究科
(理学部1号館) 509号室
時 間：9:30～17:30

グローバルCOEプログラム「宇宙基礎原理の探究」
スプリングスクール2011



[問い合わせ先]

GCOE 事務局 052-788-6195

3月22日(火)

場 所：生命農学研究科 B319号室
時 間：15:30～17:00
参 加 費：無料

農学国際教育協力研究センター
2010年度第5回オープンセミナー

講演題目：「ケニア西部のストレス環境条件下における稲生産システムの開発」
講 演 者：浅井英利（農学国際教育協力研究センター研究員）

[問い合わせ先]

農学国際教育協力研究センター
052-789-4225

3月24日(木)

場 所：名古屋国際センタービル15階
GCOE オフィス
時 間：15:00～
参 加 費：無料

グローバルCOEプログラム
「テキスト布置の解釈学的研究と教育」
講演会

テ ー マ：「中世後期における聖人崇敬と巡礼（1200～1500年）」
講 演 者：アンドレ・ヴォシェ氏（前ローマ・フランス学院長）



[問い合わせ先]

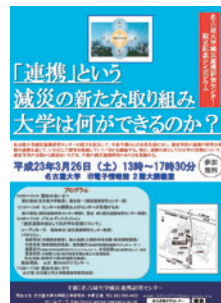
GCOE 事務局 052-747-6450

3月26日(土)

場 所：IB 電子情報館 2階大講義室
時 間：13:00～17:30
参 加 費：無料

減災連携研究センター
設立記念シンポジウム

テ ー マ：「『連携』という減災の新たな取り組み—大学は何ができるのか?—」
講 演 者：福和伸夫（環境学研究科教授）、越智繁雄氏（内閣府参事官）、
鈴木良典氏（文部科学省地震・防災研究課長）、
中野秀秋氏（愛知県防災局長）、
金田義行氏（海洋研究開発機構プロジェクトリーダー）、
藤原広行氏（防災科学技術研究所プロジェクトリーダー）、
水谷法美（工学研究科教授）、服部邦男氏（中部電力土木建築部長）、
笠井克紀氏（東邦ガス供給防災部長）



[問い合わせ先]

環境学研究科
准教授 護 雅史 052-789-3765

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

3月26日(土)

場 所：博物館実験室、野外観察園

時 間：13:00～16:00

定 員：20名

対 象：小学5年生から一般

参 加 費：50円

ミクロの探検隊

「ー植物ー電子顕微鏡を使ってさぐる形の不思議」

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

3月29日(火)

場 所：野依記念学術交流館2階

カンファレンスホール

時 間：15:00～18:10

第6回高等研究院レクチャー

テ ー マ：「環境学という学問を創る」

講 演 者：安成哲三（地球水循環研究センター教授）、

中塚 武（環境学研究科教授）、

横山 智（環境学研究科准教授）、

加藤博和（環境学研究科准教授）

[問い合わせ先]

研究協力部研究支援課

高等研究院掛 052-788-6153

4月11日(月)～4月15日(金)

場 所：環境総合館1階レクチャーホール

**環境学研究科都市環境学専攻建築学コース／
パリ・ヴァル・ドゥ・セーヌ国立高等建築学校
2011年合同建築・都市計画ワークショップ**

[問い合わせ先]

環境学研究科

准教授 村山 顕人 052-789-3750

4月16日(土)、5月25日(水)

場 所：博物館野外観察園

時 間：13:00～15:00

参 加 費：無料

博物館春の野外観察園見学会

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767



【訂正とお詫び】

名大トピックス212号（2011年1月発行）及び213号（2011年2月発行）で以下の誤りがありましたので、深くお詫び申し上げますとともに、下記のとおり訂正させていただきます。

212号31ページ・「本学関係の新聞記事掲載一覧〔平成22年11月16日～12月15日〕」

〔誤〕39 中山道東濃駅伝：女子の部 本学女子混成チームが2位、山口洋美さん、寺西美希さん、北村幸奈さん本学学生が区間賞を受賞
一般Aの部 田中祐治さん本学院生が区間賞を受賞

〔正〕39 中山道東濃駅伝：女子の部 名古屋大学女子混成チームが2位 一般Aの部 田中祐治さん本学大学院生が区間賞を受賞

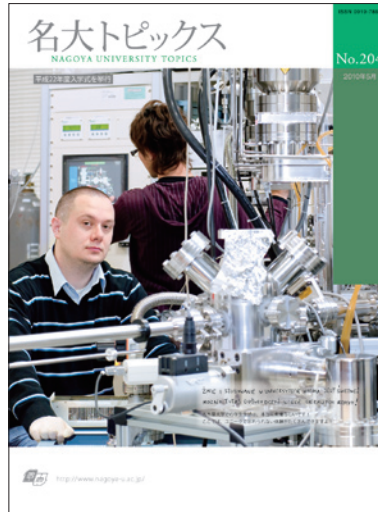
213号18ページ・イベントカレンダー

〔誤〕名古屋市博物館共催事業

〔正〕名古屋市科学館共催事業



203号 (2010年4月)
「卒業・修了留学生を送る夕べ」に出席した留学生



204号 (2010年5月)
研究室での風景
撮影協力：工学研究科
MALINOWSKI さん (ポーランド)



205号 (2010年6月)
新緑の中、会話を楽しむ留学生
撮影協力：NUPACE
(左から) ARIANI さん (インドネシア)
RILEY さん (アメリカ)
NYKVIST さん (スウェーデン)



206号 (2010年7月)
名大祭に模擬店を出店する中国人留学生



207号 (2010年8月)
実験自動車の見学をするサマープログラム参加留学生



208号 (2010年9月)
中央図書館での風景
撮影協力：NUPACE GILL さん (イギリス)



209号 (2010年10月)
南部食堂でおしゃべりを楽しむ留学生
撮影協力：留学生センター
BEDANOVA さん (チェコ) (左)
KIM さん (オーストラリア) (右)



210号 (2010年11月)
大学院秋季入学式に出席した留学生



211号 (2010年12月)
セミナーでの発表風景
撮影協力：国際開発研究科
OTCHIA さん (コンゴ民主共和国)



212号 (2011年1月)
サークル活動風景 (弓道部)
撮影協力：工学部 AMORIM さん (ブラジル)



213号 (2011年2月)
学食でランチをとる留学生
撮影協力：留学生センター
BERGLUND さん (スウェーデン) (左)
MONTSERRAT さん (スペイン) (右)



214号 (2011年3月)
インターナショナルレジデンスの廊下で
おしゃべりする留学生
撮影協力：留学生センター
JANG さん (韓国) (左)
NORN さん (カンボジア) (右)

名大トピックス No.214 平成23年3月15日発行
編集・発行/名古屋大学広報室
本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報室にお寄せください。
名古屋市千種区不老町 (〒464-8601)
TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ
(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>) でもご覧いただけます。

表紙

インターナショナルレジデンス
の廊下でおしゃべりする
留学生
(平成23年1月27日)
撮影協力：留学生センター
JANG さん (韓国) (左)
NORN さん (カンボジア) (右)



107 映像資料にみる1960年代の名大① — 第1回名大祭 —

大学文書資料室では、名古屋大学の歴史に関わる文書資料だけでなく、映像資料も収集対象としています。ただ、新しい時代のものがほとんどで、半世紀前のものとなると皆無に等しいほどです。しかし昨年、1960年代の大変貴重な2つの映像資料が寄贈されました。これらを2回にわたって紹介します。

今回取り上げるのは、1960(昭和35)年の第1回名大祭の映像です。経済学部を1963年に卒業した原田治彦氏が8ミリフィルムで撮影したもので、このたび同氏から社団法人キタン会(名古屋高等商業学校・名古屋大学経済学部同窓会)を通じて寄贈されました。

映像は8分余りで、音声はありません。第1回名大祭のパンフレットを調べてみると、4日目(最終日)の6月6日(月)の様子を撮影したものと分かります。

半分以上が、9時から15時すぎまで鶴舞グラウンドで開催された体育祭の様相です。内容は、トラック競技を中心

とするいわゆる運動会で、現在の名大祭の運動企画とは全く異なっています。そもそも名大祭とは、各学部が独自におこなっていた文化祭と体育祭を統合したものでした。参加者は、学生と教職員のほか、市内の園児、中高生、婦人会、他大学の学生と幅広く、これは当初の名大祭が掲げた「学内の統一と市民との交流」の理念にもとづいたものでした。

次がフォークダンスで、さらにその次に映っているのが、名大祭の伝統として現在まで連綿と続く仮装行列です。現在はプレ企画として、名大祭の半月ほど前に1日かけておこなわれますが、当時は名大祭当日で、1時間半と比較的短いものでした。また、仮装は政治的なものも多く、これも現在とかなり趣がちがっています。

この8ミリ映像は、キタン会によってデジタルデータに変換され、DVDになっています。大学文書資料室で申請すれば、どなたでも視聴することができます。



1	2	3
4	5	

- 1 体育祭の100m競走のゴールシーン。
- 2 体育祭の玉入れ。教職員・婦人会・女子学生が参加した。
- 3 フォークダンス。以後、名大祭の定番企画として、1989年の第30回まで続いた。
- 4 鶴舞グラウンドから出発しようとしている仮装行列。
- 5 名古屋市街を行進する仮装行列。このあと、東山キャンパスに移動してのファイヤーストーム(後夜祭)の様相も映っているが、残念ながら暗くてあまりよく見えない。